

第4回瀬戸市基本構想審議会 議事録

- 1 日 時：令和8年5月19日（火）午前10時から正午まで
- 2 場 所：瀬戸市役所 北庁舎4階庁議室
- 3 出席者：瀬戸市基本構想審議会委員10名（うちオンライン参加3名）
 【会長】 石川 良文 （南山大学総合政策学部 教授）
 林 ともみ （ラジオサンキュー／瀬戸市障害者地域自立支援委員会）
 橋本 美香 （大橋運輸株式会社）
 神田 すみれ （多文化ソーシャルワーカー）
 伊藤 和真 （株式会社PoliPoli）
 吉澤 克哉 （東海旅客鉄道株式会社）
 野々垣 賢人（瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ）
 石川 圭一 （土街人プロジェクト／株式会社双寿園）
 堀部 篤樹 （愛知産業大学通信教育部造形学部 准教授）
 水谷 香織 （名古屋学院大学現代社会学部 准教授）
 瀬戸市長 川本 雅之 ※途中参加
 事務局（瀬戸市企画部政策推進課）4名
- 4 欠席者：委員 鷺見 英利 （株式会社官民連携事業研究所）
 梅村 佳範 （朝日インテック株式会社）
 浦田 真由 （名古屋大学情報学部 教授）
- 5 傍聴者：4名
- 6 議題及び議事内容：以下のとおり

発言者	内 容
1 開会	
事務局	（市長途中参加の報告、欠席委員および条例の規定に基づく会議成立の確認 等）
2 協議事項	
(1) 基本構想 将来像・キャッチコピーについて	
事務局	（資料の要点を説明）
石川会長	将来像やキャッチコピーは、今後の瀬戸市の方向性を市民と共有する上で重要な要素となる。言葉そのものの印象や伝わりやすさ、市民がどのように受け止めるかという観点から、率直なご意見をいただければと思う。
吉澤委員	キャッチコピー、将来像、サブタイトルの3つが示されているが、それぞれの位置付けや関係性をどのように整理されているのか確認したい。 あわせて、それぞれの使用方法等についてもお聞きしたい。キャッチコピーは単独で使用する可能性がある一方、将来像とサブタイトルは基本的にセットで用いるものだと思定している。
事務局	基本構想・基本計画は今後の市のPRにも活用していくことを見据え、キャッチコピーとして設定している。

発言者	内 容
事務局	サブタイトルの「化学変化をまちの力に」は、これまで議論してきた地域資源や、多様な人や活動が交わることで新しい価値を生み出していくという考え方を表現したものである。 また、「化学変化」が市民には伝わりにくい可能性もあることから、その結果として実現される姿を将来像として「自分らしさがかなうまち瀬戸」と表現している。 「人・コト・瀬戸」「自分らしさがかなうまち瀬戸」「化学変化をまちの力に」の3つは、それぞれ広くPRする、市民向けメッセージ、まちの方向性を示す役割を担い、場面に応じて使い分けることを想定している。
野々垣委員	キャッチコピーだけで、全てを伝えることには限界がある。自分が開催している対話型の交流イベントの、総合計画をテーマに開催した際にも感じたが、具体的な事例やイメージが示されることで理解が深まりやすくなるのでは。 「自分らしさがかなうまち」という表現についても、人によって受け止め方が異なるため、どのような状態を目指しているのかが分かる具体例をあわせて示すことが重要である。
林委員	説明を聞けば理解できる内容であるが、言葉だけを見ると少し分かりにくい印象がある。 「人・コト・せと」という表現は親しみやすい一方で、表記や見せ方については工夫の余地があると思う。 また、「自分らしさ」ではなく「あなたらしさ」の方が、市民一人ひとりへ語り掛けるような印象になるのではないかな。
橋本委員	「自分らしさがかなう」という表現は魅力的である一方、人によっては個人主義的に受け取られる可能性もある。 これからの地域社会では、多様な人々が支え合いながら暮らしていくことが重要であり、そのような視点も表現の中に含まれると良い。 また、「人・コト・せと」は興味を引く表現ではあるが、初見では意図が伝わりにくいため、背景や意味を補足する工夫が必要である。
堀部委員	「人・コト・せと」の表現は興味深い、「人」だけ漢字になっている理由など、説明がないと分かりづらい部分もある。 また、今回の議論の核となっている「化学変化」の考え方を、どのように表現へ落とし込むかが重要である。 全体として興味深い案であり、「あなたらしさ」という表現にも魅力を感じるが、説明量や最適な言葉選びなど、慎重な検討が必要である。
伊藤委員	基本構想の方向性については、これまでの議論が反映されており、「人」や「化学変化」を重視する考え方にも共感できる。 一方で、現在のキャッチコピーは方向性としては良いものの、高校生など若い世代にとっては印象に残りにくく、瀬戸らしさの表現が十分ではないと感じる。 今後は、やきものはじめとする地域の特性や土地の記憶、「こねる」「まざる」といった瀬戸ならではの要素を生かしながら、より個性的で記憶に残る表現へ磨き上げることが望ましい。 これからの未来を担う若い世代が面白いと感じるとともに、長く住み続けてきた人々も愛着を持てるキャッチコピーとなることを期待する。

発言者	内 容
神田委員	キャッチコピーは韻を踏む工夫は感じられるものの、全体として印象が弱く、瀬戸らしさがより伝わる表現が望ましいと感じた。 また、「自分らしさ」は個人主義的な印象を与えるため、「あなたらしさ」など受け手に寄り添い、多様な人々を包み込む意図が伝わる表現も検討の余地がある。 さらに、「化学変化」については説明があれば理解できるものの、多様な人々の活躍が地域の力につながるイメージがより具体的に伝わるよう、一層の工夫が必要である。
水谷委員	「化学変化」の考え方は理解できたが、イラストなどを用いて視覚的に示すことで、相互作用や変化のイメージが共有しやすくなり、理解の促進につながると感じた。 また、「自分らしさ」「あなたらしさ」といった表現は受け取り方に差があるため、言葉選びは慎重に検討する必要がある。 さらに、やきものなど瀬戸らしさを前面に出した表現は新たな視点であり、地域の個性や挑戦する姿勢を言葉に反映する可能性を感じた。 今後10年を見据え、人口構成の変化なども踏まえながら、その必要性や表現のあり方を引き続き検討していくことが重要である。
伊藤委員	キャッチコピーは、瀬戸のやきもの文化や長い歴史を生かし、「こねる」「まざる」「変わる」といった言葉を取り入れることで、地域らしさが伝わり印象に残る表現とすることが望ましい。「土をこねて1000年、未来もこねていく」など、瀬戸ならではのストーリーや独自性を感じられる表現が効果的である。 また、無難で一般的な言葉ではなく、思わず目を引くような特徴的で尖った表現とすることで、地域の個性や魅力をより強く発信できると考える。
吉澤委員	将来像・サブタイトル・キャッチコピーの関係性が十分に整理されておらず、一体感に欠けていることが課題である。本来、キャッチコピーは将来像とサブタイトルの内容を統合して表現するものであり、その前提で全体を再構築する必要がある。 また、現在の構成は化学変化を通じて「自分らしさがかなうまち」を実現する考え方に見えるが、これまでの議論では、化学変化による成果そのものではなく、多様な人や価値観が交わることで化学変化が起こり続ける状態を目指すという認識であったため、まずはその方向性を共有した上で検討を進めるべきである。 さらに、キャッチコピーはやきものなど瀬戸ならではの要素を取り入れ、地域の個性が伝わる表現とすることが重要である。
石川委員	やきもの文化をキャッチコピーへ取り入れることは、瀬戸らしさを伝える上で有効であると感じる一方で、サブタイトルについては、今後の運用の中で柔軟に見直すことができていいのではないかと。 キャッチコピーは、より印象的で瀬戸らしさが伝わる尖った表現が望ましい。
伊藤委員	瀬戸市は1000年続くやきもの文化という他にはない歴史と伝統を有しており、これを市の大きな強みとしてキャッチコピーにも生かすべきである。 「1000年」という歴史性に、「まざる」「変わる」など化学変化を連想させる要素を組み合わせることで、独自性やシティプライドが伝わる印象的な表現が期待できる。 自分は専門家ではないので、最終的なキャッチコピーの作成は専門家に委ねたい。

発言者	内 容
石川会長	将来像やキャッチコピーは計画全体を象徴する重要な言葉であるため、慎重な検討が必要である。 「化学変化」はこれまでの議論を通じて共有されており、総合計画としては独自性のある表現である一方、それ以外の部分はやや一般的な印象も受ける。 今回の意見を踏まえ、方向性を生かしながら、より瀬戸らしく市民に伝わりやすい表現となるよう、再度検討いただきたい。
事務局	今回は合意形成ではなく意見収集を目的としており、2040年の瀬戸市の将来像を考える上で多くの示唆が得られたと認識している。 「まぎる」「化学変化」「自分らしさ」などの表現については、より伝わりやすく共感を得られる言葉への見直しが必要であると感じた。 また、キャッチコピーの必要性も含めて整理しながら、2040年の方向性や将来への期待感が伝わる表現となるよう、今後さらに検討を進めていきたい。
(2) 基本構想 構成イメージについて	
事務局	(資料の要点を説明)
石川会長	将来像と、その実現に必要な要素を含めた基本構想全体のイメージについて説明があった。今後は、将来像の実現に向けて必要な考え方や要素を市民と共有していくため、内容や表現方法について意見を求めたい。 また、これまでの議論が適切に反映されているかについても意見をいただきたい。
野々垣委員	地域資源として抽出されたキーワードには、歴史やインバウンドに関する要素が含まれているが、町並みや建築といった視点が十分に反映されていない点が気になった。 歴史・文化や観光の魅力を支える基盤として、古い町並みなどの空間的資源も重要であるため、こうした要素についてもキーワードとして位置付ける必要があるのでは。
石川会長	ご発言のとおり、これまで築いてきた町並みも重要な資源である。キーワードとして盛り込んでいただいきたい。
神田委員	外国人人口の増加や異文化交流の素地については、単に受け入れる視点だけでなく、地域を支える担い手として捉えることが重要である。 特定技能人材を含む外国人は一時的な存在ではなく、今後も地域で暮らし活躍していく人々であるため、その力をどのように生かしていくかという視点を持って記載できると良い。
水谷委員	人口構造の変化に関する資料を通じて、50年後を見た上で10年後の社会をより具体的に想像することの重要性を感じた。 実際に、子育てや仕事と親の介護を同時に担う家庭が増えており、こうした負担は今後さらに大きな課題になると考えられる。そのような状況では、「自分らしさ」や理想的な将来像を掲げるだけでは十分ではなく、それを支える環境や余力がなければ実現は難しい。特に、仕事、子育て、介護、家事による負担増によって、生活維持が優先され、個人の挑戦や自己実現が困難になることが懸念される。 そのため、将来像の実現には、福祉の充実や支援人材の確保といったソフト面に加え、道路や下水道などのインフラ整備といったハード面も含めた基盤の見直しが不可欠である。

発言者	内 容
水谷委員	また、将来的に自らが支援を受ける立場になることも見据え、次世代に過度な負担を残さない仕組みづくりも重要である。 将来像やビジョンには、個人の実現だけでなく、それを支える社会基盤や支援体制の整備を明確に位置付ける必要があると感じた。
石川会長	資料3で示された人口構造の変化を踏まえ、子どもや高齢者をはじめとする各世代の構成変化を見据えながら、2040年の将来像や基本構想の方向性を検討していくべきという理解でよい。
水谷委員	将来の姿だけでなく、その時に市民の暮らしや地域の現場がどのような状況になっているのかを具体的に想定し、それを踏まえた計画とする必要があると考える。
林委員	資料は内容がよく整理されている一方で、UDフォントの活用や文字の拡大など、視認性の向上が必要である。また、市民に分かりやすい表現への工夫も求められる。 さらに、「すべての人」を対象とする以上、多様性の推進だけでなく、変化に対応しづらい人を取り残さない視点や行政による積極的な支援姿勢を示すことが重要であり、施策の大綱「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」には、直面する課題への視点も盛り込んでほしい。
野々垣委員	総合計画をテーマとした対話型交流イベントでは、募集開始直後に多くの参加応募が集まり、関心や期待の高さが伺えた一方で、参加者のうち現行計画を見たことがある人は半数弱にとどまり、内容まで把握している人は多くない現状であると感じた。 計画を広く共有するには、従来の資料提示だけでなく、動画の活用や概要を直感的に理解できる工夫など、多様で分かりやすい情報発信方法を取り入れる必要がある。
吉澤委員	やきものに関する専門用語は前段で補足し、市民に分かりやすく伝える工夫が必要であると感じた。 また、人口減少を踏まえると地域外の活力を取り入れる視点も重要であり、外部からの流入と地域内活動の活性化について、ダイバーシティ（多様性）の視点から整理し、適切に反映されると良い。
伊藤委員	資料3については大きな違和感はなく、方向性については概ね評価できる。その上で、3点意見を述べたい。 1点目として、東京や名古屋を目指すのではなく、瀬戸市ならではの独自性を追求することが重要だという点である。現在の内容は一定程度特徴が打ち出されており評価できるため、今後も他自治体との差別化を意識しながら、より個性を前面に出した計画としていくことが望ましい。 2点目として、人口減少を起点に課題を整理している点は評価できるが、人口だけでなく産業やインフラなどの観点についても、数値や期間を示しながら課題を明確にする必要があるということである。特に、やきもの産業を取り巻く環境の変化や付加価値の低下、インフラの老朽化などの課題についても市民と共有し、より具体的な課題設定を行うことが重要である。 3点目として、総合計画は策定後の運用が重要であり、数値目標の設定に加え、定期的な見直しや改善を行う仕組みが必要であるという点である。市民から継続的に意見を収集し、庁内外で計画を共有しながら実効性を高めるべきであると感じた。

発言者	内 容
橋本委員	人口減少や少子高齢化が進む中、ダイバーシティの重要性は今後ますます高まると考えられる。実際に企業でも外国人採用が進んでおり、多様な人材を受け入れる環境づくりが課題となっている。 瀬戸市においても、歴史や温かみ、多様な自然環境といった地域の強みを生かし、市民全体で受け入れる土壌を育むことが重要である。 また、こうした魅力を積極的に発信し、移住者に安心感を与えることで、地域の魅力をさらに高めていく必要がある。
堀部委員	課題・チャンス・地域資源等を示したページについて、課題が左上に配置されていることや青色を基調としたデザインの影響もあり、全体としてややネガティブな印象を受けた。また、掲載されている情報量が多く、閲覧者によっては内容を負担に感じる可能性があるのではないかと感じた。 一方で、瀬戸市のポテンシャルが整理されている点は評価できる。やきものや自然環境などの地域の強みは、要素を絞ってシンプルに示した方が伝わりやすく、情報を盛り込み過ぎると魅力が埋もれてしまう懸念がある。 また、人口減少に関する記述が冒頭で強調されているが、まずは2040年の前向きな将来像を示し、その後に課題を整理する構成の方が、受け手に希望や期待を持ってもらいやすいのではないかと感じた。 さらに、支援学校や公立・私立高校、大学など多様な学びの場が整っていることは瀬戸市の大きな強みである。様々な意見を反映することも重要であるが、特に子どもたちが自分事として将来を考えられるよう、2040年の瀬戸市の姿を分かりやすくイメージできる資料とすることが望ましい。
伊藤委員	総合計画としては危機感だけを強調するのではなく、現状認識と将来ビジョンの両方を示すことが重要である。 課題については、人口動態などの客観的なデータに基づき現実をしっかりと示した上で、2040年や2050年の目指す姿を明確に描く必要がある。 厳しい現状を踏まえながらも、課題を乗り越えた先に明るい未来があることを示し、市民が前向きな希望を持てる構成とすることが望ましい。
石川委員	地域に長く住む立場としては、新しい住民が増えている実感がある一方で、計画策定にあたっては客観的なデータに基づく現状把握が重要であると感じた。 また、新たに転入した人々が地域活動に参加しやすい仕組みを整えることで、人と人とのつながりを深めることができるのではないかと考えている。 さらに、瀬戸市には土や森など自然との距離が近く、多様な環境や生態系が育まれているという魅力があるが、その価値が十分に伝わっていない面もある。こうした地域固有の多様性を分かりやすく言語化し、まちづくりにどのように生かしていくのかを今後さらに議論していくことが重要なのではないかと感じた。
石川会長	<u>資料1</u>について、2040年に想定される社会の姿が課題を中心に描かれており、全体としてややネガティブな印象を受けた。課題を正確に捉えることは重要であるが、瀬戸市が持つ多様なポテンシャルや強みが十分に表現されておらず、地域の強みが将来像を実現するための手段としてのみ扱われているように感じられ、構成としてややバランスを欠いている印象を受けた。

発言者	内 容
石川会長	また、「働く場が減り地域経済が縮小する」といった、本来は避けるべき将来の社会の姿が前提として示されている点にも違和感がある。 人口減少などの課題を踏まえることは必要であるものの、将来予測に基づくフォアキャストの視点だけでなく、「どのようなまちを目指すのか」という理想の姿を起点としたバックカスティングの考え方も重視すべきである。 そのため、課題の提示に加え、瀬戸市の可能性や目指す将来像をより明確に示し、市民が夢や希望を持てるストーリー性のある構成とすることが重要である。 本日も、委員の皆さまから多様な意見をいただいた。事務局において整理・取りまとめを行い、基本構想案の更なる検討をお願いしたい。
3 報告事項 (1) 次期瀬戸市将来計画全体像・基本計画 イメージについて	
事務局	(資料の要点を説明)
水谷委員	課題として示されている内容については、現状から将来を単純に予測するという考え方だけではなく、望ましい未来を描くと同時に、起こり得る最悪の事態についても想定しておくことが重要であると考えます。 その上で、リスクマネジメントの観点から、想定される課題やリスクに対して考えられる対応策をあらかじめ整理し、計画に反映していく必要がある。 そうした意味では、理想の将来像とリスクの両面を見据えながら将来を設計していく「デザイン思考」の考え方が重要であると感じた。
石川会長	総合計画を推進していく上では、まず「どのような将来を目指すのか」という将来像を明確にすることが重要である。 その中で、これまで議論してきた「舳葉」や「火」といった瀬戸らしい要素や4つの施策の大綱については、委員間では一定の共通認識が形成されているものの、庁内職員にとって必ずしも十分に理解しやすい内容になっているとは限らないと感じている。 今後、計画を実行段階へつなげていくためには、こうした考え方や意味合いを職員が十分に咀嚼し、自らの業務に落とし込めるよう整理・共有していく必要があると考えるが、事務局としての考えを伺いたい。
事務局	分野別政策目標の検討にあたっては、6月から実施する「市長と各部との対話」をとおして進める予定である。その前段として、事務局から説明動画を配信するなど、デザイン思考の考え方も含めて、目指す将来像や計画の方向性について職員間での共有を図っていく。 特に今回は、若手職員を含む全ての職員に計画策定へ関わってもらいたいと考えており、説明会の開催や市長からのメッセージの発信などを通じて理解を深めながら、共通認識のもとで計画づくりを進めていきたいと考えている。
石川会長	資料3で示された課題やチャンス等には、庁内からの意見も反映されるのか。
事務局	現在記載している内容は、昨年度に実施した市民向けアンケートやワークショップ、オンラインでの意見収集などから得られた声をもとに整理したものである。 今後、基本計画の検討を進めていく上で出てきた意見についても、活用していきたいと考えている。

発言者	内 容
4 その他	
石川会長	本日、市長に途中からご参加いただいているが、次期将来計画策定に込めた思い等についてお聞きできればと思う。
市 長	本日も様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。委員の皆様から、それぞれの立場で貴重な意見をいただきながら議論が進められていることを大変ありがたく感じている。今後も引き続き、皆さまとともに計画を作り上げていきたい。 人口減少は今後避けることのできない課題であるが、そのような状況の中でも、一人ひとりがウェルビーイングを実感しながら暮らせる環境をつくっていくことは十分可能であると考えている。現在も、住むことや働くことを含め、瀬戸市で暮らす魅力を高める取組を進めているところである。 また、今回策定する基本計画の期間中に、市制施行100周年という大きな節目を迎える。そうした機会も生かしながら、暮らしやすさだけでなく、「まちを楽しむ」という視点も大切にしていきたい。市民の皆さまと一緒に瀬戸のまちを楽しみながら、未来に向けてワクワクできるような時間や経験を積み重ねていくことが重要であると考えている。 本日の議論の中でも「ワクワクする未来」という意見があったが、次期将来計画においても、市民の皆様が希望や期待を持てる将来像を示していくことが大切である。そのためにも、引き続き多様な視点からご意見をいただきながら、より良い計画づくりを進めていきたい。 改めて、本日は活発な議論に感謝申し上げます。今後ともお力添えをお願いする。
事務局	(今後のスケジュールについて報告)
5 閉会	

以上